

Validation Seminar 2006

2006年9月7日(木曜日)に角筈区民ホール(東京都新宿区)で開催した「ビッキー・デクラーク・ルビン氏が語るバリデーションセミナー2006」にて、多くの受講者の皆さまがアンケートにご協力くださいました。アンケート結果を下記にご報告いたします。

アンケート結果報告(全会場共通)

セミナーに参加してみてものご感想、ご意見をお聞かせください。

- 👉 今まで私は認知症の方の対応として、その方が不安であれば安心できるような声がけをし、落ち着いてもらうことを考え対応していましたが、バリデーションはありのままを受け入れ、一緒に体験するものなのかなと感じました。
- 👉 時間が経つのが早いと思うほど、とても聞きやすく、わかりやすく、自分の中へ入っていったと思います。これからもっと知りたいと思いました。
- 👉 見当識障害のあるお年寄りがいる家庭では、すぐ怒ってやめさせるなど、家族や介護者が指示をし、支配するという構図を日頃いろいろな家で見ました。このセミナーを受けて、バリデーションはこれから広めるべき大切なものだと思います。
- 👉 もっと漠然とした話かと思いましたが、具体的なロールプレイもあり、身近な例として感じました。
- 👉 ロールプレイなどを用い、『このような状況ではこんな対応ができる』という実践に生かせるような理論を学ぶことができました。多くの話を聞き、今まで考えなかった新しい視点、アイデアを知ることができ、介護という自分の職に今後の可能性を感じました。今後も情報収集、勉強をし、さらにバリデーションへの理解を深めていきたいと思っています。
- 👉 本を読みましたが、実際に話を聞いてみて、本だけでは理解できない部分がありよかったです。また、具体例をいろいろと話してくださったので、職場の利用者をイメージできてわかりやすかったです。
- 👉 訪問看護を通して、認知症の方にどのように接したらいいかと思う気持ちがあり参加させていただきました。今回は、その方が生きてきた人生を少しずつ理解しようとする気持ちが大切であり、またその方法の一つとしてバリデーションがあるということがわかりました。
- 👉 バリデーションを知り、今まで以上に細かい視点からコミュニケーションを図ることができると思います。いろいろな角度から認知症の方を観察し、その行動を考え、少しでもその方の気持ちや心に近づけるよう、今後、日々の生活から気をつけていきたいと思いました。
- 👉 バリデーションの基本にある「共感」というのは、「頭ではなく心から感じること」と、シンプルだけど、大切なものを学びました。お年寄りの感情はどんな感情でも宝物のように感じました。